

協議会ニュース

No. 149

2015.12



Contents

- | | | |
|----|--|-------------|
| 02 | 自然観察指導員講習会 講師を経験して | 名古屋支部 新山 雅一 |
| 03 | 指導員講習会を終えて | 事務局 石原 則義 |
| 04 | 指導員講習会を経て協議会に入会した新メンバーからのメッセージ | |
| 05 | 昆虫分類研修会 | 名古屋支部 佐藤裕美子 |
| 06 | 木曽の国有林で初秋の花見 | 西三河支部 松山 太 |
| 07 | 水辺の生きものを探そう | 尾張支部 鬼頭 弘 |
| 08 | 矢勝川の生き物観察 | 知多支部 榊原 正 |
| 09 | 月光浴と夜の自然観察 | 東三河支部 寺本 和子 |
| 10 | 私の活動紹介 | 名古屋支部 石榑 純子 |
| 11 | 世界のインターパリテーション
第4話 ベネズエラでの植林 | 東三河支部 中西 正 |
| 12 | 自然観察指導員講習会を経て 24名の方が協議会に入会されました！ / 編集部から | |

今号の表紙

木村 紗子 (尾張支部) コナラ

自然観察指導員講習会 講師を経験して

名古屋支部 新山 雅一

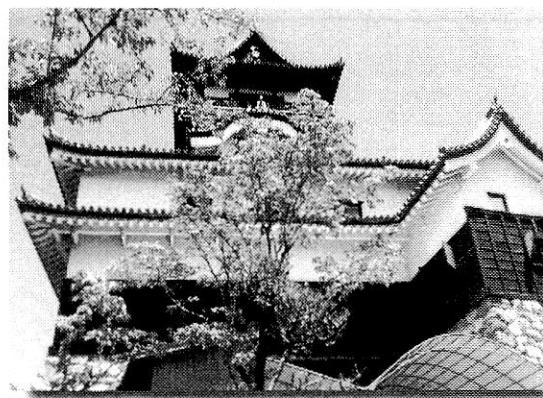


私が愛知県自然観察指導員協議会に入会するきっかけは、6年前に岡崎市の桑谷山荘で開催された自然観察指導員講習会でした。それまでは、仕事柄全く実務経験がない素人だったので、最後のミニ観察会でもネタに困り、かなり指導されたことをよく覚えています。

今回の自然観察指導員講習会は、名所・旧跡・自然に恵まれた国際観光文化都市である犬山市の「犬山ユースホステル」で開催されました。講師という立場で初めて参加し非常に緊張しましたが、貴重な経験をして新たな一歩を踏み出すことができました。

講習会2日目のNACS-J講師による屋外実習では、解説を中心にするのではなく体験を第一とするなどの観察会のヒントが多数ありました。特に印象に残った「俳句でHike」というゲーム感覚の発表会や、紙芝居を駆使して楽しませてくれました。また、自然の一部にある人工物を対象にした模様や跡が何ですか?という質問には、参加者からオリジナルな意見が飛び出しました。

道路上に型崩れしていないカエルの死骸があり、皆でじっくり観察しながら原因を考えました。それには人間が関わっていることが多く、足元の自然観察を体験しました。他にも五感を使うこと大切さを学び、気になる手触りや香りを5分間探したり、目をつぶり音の数を数えたりしてみんなで内容を共用しました。午前中は屋外実習で雨も降りましたが、緑に囲まれた山間いでゆったりとした時を過ごすことができました。



▲国宝犬山城

午後からは、講師として新指導員のアドバイザー役を務めました。私の次女と同学年の大学生や、既に海上の森で活動している同年代の方、経験豊富な年配の方など、今回の講習会の意義が全員に伝わっていると思われるすばらしいオリジナルなミニ観察会を開催してくれました。新人といっても、皆さんある程度経験を積んで、レベルアップの為に参加しているようでした。

最後になりますが、新自然観察指導員のみなさまに一言・・少しでも参考になればと思います。『生物多様性』とよく言われますが、生態系の多様性を一旦壊してしまうと、元に戻すことは至難のわざです。自然の変化に注意し、いつも自然保護を心掛け下さい。それから、自然観察指導員として観察会のリーダーとして一回でも多くの場数を踏んで経験を積み重ねて下さい。観察会後は、謙虚な姿勢で正解はないと思いその都度反省して常に自身のレベルアップを目指して下さい。また、愛知県自然観察指導員協議会の各支部に所属して、各種行事や研修会に参加して一人でも多く仲間として活躍されることを期待しています。

指導員講習会を終えて

事務局 石原則義



1年おきに、愛知県・日本自然保護協会主催で開かれる指導員講習会。今年8月29(土)・30日(日)、一昨年と同じ犬山国際ユースホステルを借り切って行われた。

定員は県外の受講者を含めると50名。どう集めるかである。事務局としては、身近な現指導員にチラシを10枚ずつ配り、自分の活動エリアに配っていただいた。指導員講習会を受講していただくのには、口コミ、人と人のつながりが一番大切なようだ。何人かの人から手ごたえがあった。

今回と前回の違いは、若い受講者が多かったことだ。広報担当者が大学や専門学校など自然系の学部などに宣伝をしてくれた。日本自然保護協会の指導員講習会の担当者も、こんなにも若い人が応募してくれたのは初めてとうれしい悲鳴を上げていた。応募からそんなに時を経ず、80名を超える応募があった。これ以上増やさないように、各支部・理事に連絡をした。

抽選が行われた。せっかく応募して抽選に漏れた方には申し訳ない思いだ。

指導員講習会は、51名の方が受講した。

1日目の午前中は野外実習①「自然観察の視点」で、3班に分かれ実際に森に入り自然のしくみを現場で体験した。午後は講義①「自然の保護」で、生物多様性の保全とわたしたちのくらしを小野木さんから学んだ。夕食後の講義②「自然の観察」では、自然観察会と指導員の役割を一寸木さんから学ぶことができた。



▲野外実習①自然観察の視点

講義後は、広報担当から県協議会の活動を紹介。21:00からは、講習会参加者と県協議会役員との情報交換会を開き、和気あいあいと交流を楽しんだ。

30日(日)は雨にも負けず、朝早くから有志で観察会を楽しんだ。午前中は野外実習②「自然観察の素材」で、いろいろなテーマの自然観察が紹介された。受講生は、そこから自分で自然観察会の企画の展開を考えた。午後には受講生が指導員となり実際に自然観察会をやってみた。

講習会の終りの会で県協議会への入会をお願いしたところ24名の方が快諾。これから各支部での活躍が期待される。さらに、10月20日に実施予定の振甫中学校の稻武での観察会のお手伝いのリーダーをお願いしたところ3名の応募があった。この方々はリーダー講習会の下見にも参加し、当日は立派にリーダーをやり遂げていただいた。感謝の一言に尽きる。

指導員講習会を経て協議会に入会した新メンバーからのメッセージ

(五十音順に掲載)

雨宮といいます。まだまだ若輩者ですが研鑽を積んでいきたいです。よろしくお願いします。(西三河支部 雨宮信弘氏)

自然が好きで、特に雑草やコケに興味があります。旅行も好きです。よろしくお願いします。(名古屋支部 大町香織氏)

今まで観察会への参加経験はありませんでしたが、これからは少しずつ行動していけたら……と思っています。アウトドアが大好きです。よろしくお願いします。
(名古屋支部 片倉和子氏)

はじめまして、名古屋大学で学生をしております内藤と申します。菌類が好きです。日本全国の光る生物を集めております。情報お寄せ頂けましたら嬉しいです。
(名古屋支部 内藤将志氏)

自然観察会でいろいろ勉強していきたいと思います。ご指導よろしくお願ひいたします。
(知多支部 福岡 隆氏)

頼れる指導員を目指してがんばります!!
(東三河支部 保木井亜紀子氏)

植物、昆虫、野鳥、何にでも興味があります。活動のサポートに参加しながら学んでいきたいと思います。よろしくお願いします。(西三河支部 森山義広氏)

はじめまして、渡邊康晴と申します。住まいは知多半島の武豊町で、会社員です。子どもたちと近くの小川で観察を続けています。市街地を流れる小さな川なのですが、ウナギが良く獲れる事がちょっとした最近の驚きです。(観察会が終わったらウナギは川に帰しています。)よろしくお願いいたします。
(知多支部 渡邊康晴氏)

海上の森で遊んでいます。

(尾張支部 石川明博氏)

子どもたちに自然のすばらしさを得させたい。
(名古屋支部 井谷雅治氏)

森林公园ゴルフ場スタッフです。
(尾張支部 大脇孝治氏)

一宮市在住の神谷直希です。名古屋市の猪高緑地で米づくりをメインに活動しています。知らないことばかりでご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いします。
(名古屋支部 神谷直希氏)

森ですごしていると、ホーッとします。
(尾張支部 長谷川貢氏)

小幡緑地本園の湿地の植物に関心があります。特にトウカイモウセンゴケの小さなピンク色の花が好きです。トンボの飛行写真に挑戦し続けていますが、負け続けています。よろしくお願いします。
(名古屋支部 平山希能氏)

まちなかにも自然がいっぱいです。

(名古屋支部 堀井奈保美氏)

自然観察は奥深いことを知りました。より興味を持っていきたいと思います。
(尾張支部 三浦町子氏)

ほかにも…

尾張支部	井上修一氏
尾張支部	今川孝博氏
名古屋支部	北折晴美氏
名古屋支部	長谷川博樹氏
知多支部	森下栄子氏
知多支部	森下保男氏
尾張支部	安田千穂氏
尾張支部	吉村久子氏

よろしくお願いします！

昆虫分類研修会

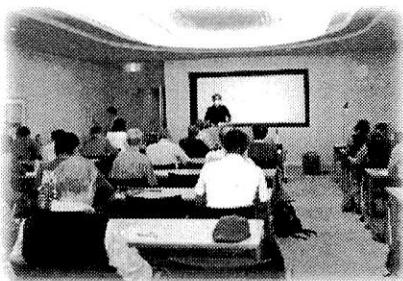
日時：2015年10月12日（月・祝）

場所：ウィルあいち

「日本産トンボ類の最新の分類体系と深刻化する水辺の外来種問題」 荘部治紀氏

「虫あれこれ～こんな虫がいる」 水野利彦氏

名古屋支部 佐藤 裕美子



今年の生物分類研修会のテーマは「昆虫」で、見出しの両先生からの講演であった。神奈川県立生命の星・地球博物館の莊部治紀氏からは、トンボを例にした昆虫分類と水辺環境が危機に晒されている報告。

現在の体色、斑紋等の外部形態による分類は恣意的で、尾端の把握器、トンボ特有の腹部交尾器、幼虫(ヤゴ)、翅脈(検索表)等から種を同定する。その同定には標本を残す事が必須で、自然史博物館等の地域の拠点は記録や標本の蓄積に極めて重要だが、愛知県に無いことは非常に残念である。

DNA 解析による数値の違いは相対的で絶対的ではない。近似種は産卵方法や生態などに共通点が多く、形態や交尾器などによる総合的判断が必要である。DNA 解析の結果、日本産オニヤンマが 2 種類に分かれた事例もあり、分類の見直しが進行している。

今、水辺・砂浜・草地は急激な変化に晒され危機的状況になっている。里山や水田や草原はこれまで人間の管理によって健全な環境が保たれてきたが、次第に放置され、環境が悪化し外来種が侵入することで絶滅種や絶滅の危機にある種が激増している。水辺では特に、世界のワースト 100 リストの侵略的外来種であるアメリカザリガニによる影響が大きいにもかかわらず、危機感が薄い。かつて学校で教材化され、児童書

にも脅威の記載はほとんどなく、教育現場での啓発が急務である。ブラックバスの駆除に効果がある池干しは、アメリカザリガニの繁殖抑制効果を担うブラックバスの駆除により、かえってアメリカザリガニが繁殖し環境が悪化する場合が多い。駆除は外来種同士の生物間相互作用を見極め慎重に行う必要がある。最近は出生不明の外来種、移入種が各地で見つかっているが、侵入外来種の駆除は極めて困難で、「入れない」ことが最も重要である。

一般市民への普及啓発が非常に大切なこと、アシ刈りやアメリカザリガニの駆除など各地で取り組まれている活動も紹介された。公共事業や生活の変化など、私たちの日常生活そのものが環境を大きく変えてしまう一因でもあると痛感した。駆除は困難なことだが、「決してあきらめないで！」との先生の一言がずしりと重く響いた。

続いての講演は知多支部の会員でもある栄徳高校教諭の水野利彦氏による身近な昆虫のあれこれ。春一番に出るフチグロトゲエダシャクの独特な繁殖行動や大発生が社会問題になったマイマイガのフェロモン誘因行動など、蛾類を中心に昆虫の不思議な生活誌が紹介された。灯火採集や糖蜜トラップなど採集方法の説明もあり、知っている虫、知らない虫の興味深い生態が新鮮に思われた。季節を追ってさまざまな昆虫の美しい姿が写し出され、楽しく分かりやすい解説に会場は和やかな雰囲気に包まれた。

参加者は約 42 名と昨年の植物分類講座より少なかったが、有意義な講演であった。

木曽の国有林で初秋の花見

西三河支部 松山 太

日 時：平成 27 年 8 月 22 日（土）
 場 所：木曽福島 城山（じょうやま）
 参加者：18 名（うち西三河支部 11 名）

木曽福島駅に 9 時 30 分集合。絶好の曇天に恵まれ、各支部からもご参加頂き総勢 18 名で元気よく出発。駅から 15 分ほどで遊歩道に入ると、ツクバネの実がいっぱい名前の通りの形で納得。フシグロセンノウ、シデシャジン等綺麗な花が多くいい感じ。権現滝までは見事な自然林で、カツラ・ケヤキ・トチノキの大木に圧倒される。滝から上ではさらに花が増え、ソバナ、セキヤノアキチョウジ、コウシンヤマハッカ、カリガネソウ等、青い花が多くて清々しい。



▲ミツデカエデとメグスリノキを発見！

近道した谷では、でっかいオシダやミヤマクマワラビに取り囲まれ、恐竜が出てきそうな雰囲気。ジンバイソウの群落が満開で、ラン科のトンボソウの仲間で「一番立派な花かな～？」と皆さん珍しい花に感心。登り切った所で昼食。目の前にウダイカンバの大木があり、大きな葉っぱにびっくり。きのこもクロフクロタケ、コウモリタケ、ツガサルノコシカケ等、次々に現れるキノコの分類に皆大忙し。

タムシバの葉を噛むと信じられないくらい超甘くて、皆さん「甘い甘い」を連発。この甘さは格別で、季節？地域差？なぜ？日本海側産は、殆ど甘くないのに不思議！



▲咲いていてよかったジャコウソウ 香りは？

本日のお目当てはジャコウソウ。咲いているかどうか不安だったが、ちょうど咲き始めで薄ピンク色の可愛らしい花。その隣では、ヤマシャクヤクの実がはじけて、赤い果皮と青い種のコントラストが超綺麗。



▲4 本の緑のバナナがはじけると！！！

下りの途中でカラコギカエデを見つけ、何でこんな所に？！ 街に降りて足湯前で本日のまとめ。今日見た花は 56 種、きのこは 24 種、たっぷり楽しめ大満足でした。

あいの自然観察会

水辺の生きものを探そう

－水辺の生きものから環境を考える－

尾張支部 鬼頭 弘

【日 時】 2015年8月23日(日)

午前9時～11時30分

【天 気】 晴れ

(最高33.2度、最低24.0度)

【参加者】 15人 子ども8人(年中1人、一年4人、三年1人、四年2人)、大人7人)、市役所担当者2人

【講 師】 内海、小木曾、齋竹、鈴木、大谷、浅井、鬼頭

<観察会の流れ>

- ①9時～9時30分：東部丘陵の過去と現在(写真を見ながら)
- ②9時30分～10時：岩藤川まで観察しながら移動
- ③10時～10時40分：岩藤川で生きもの探しと、見つかった生きものの観察
- ④10時40分～11時10分：休耕田を利用したビオトープで生きもの探しと、見つかった生きものの観察
- ⑤まとめ 11時30分解散



▲見つかった生きものの観察

やや北寄りの風が吹き気持ちのよい日和でした。東部丘陵の来歴を人間生活と水の働きを関連付けて話し、その中にある岩藤川とビオトープでどんな生きものが見つかるか期待を持って出発しました。ツクツクボウシやニイニイゼミの声を聞きながら、目につく生きものを観察しました。

その後、日向と木陰に入った時の気温の違いを体感。次に樹木におおわれた川と木陰がなく水の流れの少ないビオトープとの水温の違いを体感と温度測定で確認。隣接する川とビオトープ(川と水田魚道でつながる)では水中の生きもの探しをし、共通する生きものと、ビオトープでしか見られない生きものがいることを確認しあいました。途中、地元の方が水中に落ちたヒクイナの雛を救出してつれてきたのでみんなで観察し、最後にザリガニをつかむことを確かめました。この観察会が参加者が東部丘陵の環境とそこに生息する生きものとのつながりについて考えるきっかけになればと思います。



▲ザリガニをつかむことを確かめる

矢勝川の生き物観察

知多支部 榊原 正

- 【日 時】 2015年8月23日（日）
9:30～11:30
- 【場 所】 矢勝川 小山橋付近
- 【天 気】 曇り
- 【担 当】 榊原靖、石川由
- 【参加者】 一般：大人1名、
指導員：(13名) 浅井一、加藤、榊原正、榊原靖、鈴木汎、平田、降幡、古川、牧野、南川、森下栄、森下保、森田琢

集合場所の修農公民館Pに集まったのは、一般参加者は常連の大人1名と指導員が13名。担当のお話（研修も兼ねてやりましょう…など）の後、それぞれ道具等を持って、観察場所へ移動。

昨年までは少し下流の池田橋であったが、今年は駐車場から最も近い小山橋することになった。

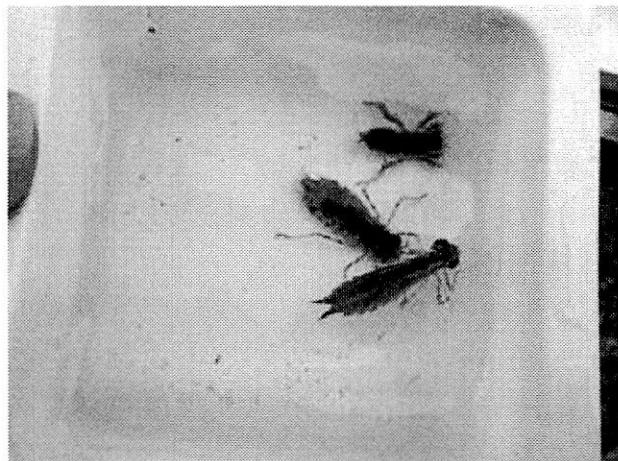
一般参加の子どもはいす、ベテランの指導員ばかりなので特段の注意連絡もなくそれぞれ自由に活動した。…水中の生きものを獲る人（ほとんど全員）、昆虫を探す人、堤防の植物を撮る人…等々。

小1時間の捕獲活動後、堤防上でミニ水族館を作っていたときに、親子連れ（母子の4人）が来て、非常に興味深そうに見始めたので、ついつい、その家族のための解説になってしまった。

もちろん、水生生物に詳しい指導員が指導員用の解説もしていたので、参加した指導員には大いに勉強になった。なお、今回

の場所は下見（草刈りも兼ねていた）に来たときに決めた。

この場所は堤防上の道から川への階段までの数メートルが幼児にとって少し危ないかもしれないが昇降用階段があるので、ハシゴより安全で許容範囲であろうと判断して決定した。



▲採集した生きもの（トンボのヤゴ）



▲ミニ水族館を設置

あいちの自然観察会

月光浴と夜の自然観察

東三河支部 寺本 和子

日 時：9月 26 日（土）17:00～19:00

場 所：豊橋公園

参加者：一般参加者 36 名、指導員 30 名

天気予報を見て半ば諦め気味だった予想に反して、時に雲間に隠れはしたもの、美しい満月イブの月の光の中、観察会は始まりました。

夜の自然観察という、普段はあまり経験できない内容に期待して、参加者も 36 名という多くの人たちが集まりました。

木彫りの得意な〇さんは、自作の仏像を持参し、腐食が激しく最近公園管理者に切られてしまった私たちの愛したエノキの木の切り株の上に、ススキの穂とともに飾り、観察会の雰囲気を盛り上げました。

東三河支部で最近設けた「ジュニア会員」の第 1 号である A ちゃんがお父さんといっしょに、コウモリの解説をしてくれました。この日のために用意された、国立科学博物

館から借用したコウモリのぬいぐるみや剥製を利用し、大人の会員が感心するような大きな声でわかりやすく解説してくれました。

その後やはり国立科学博物館から借りたバットディテクターを使って、夕暮れともにたくさん飛び始めたイエコウモリたちの出す超音波を聞きました。時に、虫を食べる音さえ聞こえたのが印象的でした。

皆で、月を眺めたのはもちろんのことです。その他、暗闇の中で、怪談「半身の鱸（スズキ）」の朗読がありました。涼しい夜風の中で、参加者は十分に涼しさを味わったことと思います。また、赤、青、緑の三原色の LED を使った光のミックス実験、目に見えない赤外線の実験もありました。夜の植物を観察し、就眠運動についても実際の姿を確認できました。また、ツヅレサセコオギを捕まえたり、盛りだくさんの内容に、参加者一同大満足の一夜でした。



▲ジュニア会員の A ちゃんとお父さんの解説



▲月の観察をする参加者

私の活動紹介

名古屋支部 石榑 純子

自然観察指導員になってもう4年が過ぎましたが、まだ自分で観察会を開催することもできずに、皆さんその後について回っています。家の近所には茶屋ヶ坂公園（池）があり、公園愛護会で清掃などをしながら先輩から地域のことを教わったりしています。ここは東部丘陵地帯の西の端で、東山の森と接しています。将来はここで定期観察会をできたらいいなと思っています。

私は地球環境問題に関心を持ったことから観察指導員になりました。化石燃料に依存した文明が破滅へと向かいカウントダウンしていくような社会に危惧を感じています。もっと自然のしくみに寄り添った社会や経済のしくみを作るためにも、まず自然のしくみを知ることが大切だと思ったからです。

現実は全世界の人口の半分が都市型の生活をしていて自然の循環から遠ざかり、持続不可能な消費を加速していくばかりです。

そんな中せめて、新しい時代、未来を作る子どもたちに自然の営みを知ってもらい、興味を持ってもらう手伝いをしたいと思いました。名古屋市の環境サポーターになり「生ゴミの堆肥化」をテーマに寸劇をして、間もなく10年です。自然界の生産者、消費者、分解者のめぐりの中で、忘れられがちなのは「分解者」です。その分解者に脚光を当て、子どもたちにお馴染みのミミズやダンゴムシに加えて、微生物のバクテリア君が土の中の魔法使いとして登場し、生ゴミや枯葉を堆肥に変えるというストーリーです。これまでに約200回実演して、延べ

約14,000人以上の小さな子どもたちに向けて発信をしました。けれど、寸劇はきっかけにすぎません。実際に自然界の中で、それを実感してもらうために、自然観察は「入口」としても「出口」としても必要不可欠だと思います。

観察指導員の先輩は、現場のことや、その変化をよくご存知の立派な方ばかりです。温暖化によること、外来種によること、化学物質（ネオニコチノイド系農薬など）によること等々、専門の分野で判っていることがたくさんある筈です。

大切なのは、それらを統合し、収れんして新しい社会のシステムにしていくことです。この分野では、切り口が多すぎるためか、その方法がよくわからず、各々が「ゴマメの歯ぎしり」をしているのが現状のような気がします。

それを打開していくために求められているのがESDの提唱する、人物を育てることだと思うのです。「すでにわかっていることを伝える教育」ではなく、人類が直面している「答えのない問題を解くための教育」が必要です。新しい世界のルールを作っていくような人物を育てて「sustainable（持続可能な）社会」を作らなければならないと思います。

話が大きくなってしまったが、そういう意識を持って、参加者や子供たちに気付きを与えられるような観察指導員になりたいと思っています。また、その方法について皆さんと一緒に勉強し、スキルアップしていきたいです。

第4話 ベネズエラでの植林

東三河支部 中西 正

ツアーの名称は「ベネズエラの生物多様性と生態系を学ぶ」で、大項目に動植物園訪問とあり、小項目には植林地まで徒歩散策、植林方法のレクチャー、植林体験、環境や気候変動に関するレクチャーとあった。

会場はカラカスの動植物公園から歩いて20分のところにあった。動物は見慣れないものが多かった。園内を抜けると山で、伐採された後のような景観である。全体が灌木や草で覆われ、谷の一部にはタケさえ見える。そんな景観が広がっている。そこにはテントが設営されていて、そこまでの道にはコンクリートが張られていた。そこからの景色はいっそう木がない山であることを印象付けられた。ある尾根沿いには崖崩れが爪痕となって、幾つも並んでいたし、足元の崖台地はごそっと崩れていた。地質は砂質で、丁度渥美半島の太平洋岸のようである。大雨が降ると危ない地域のようだ。

この植林計画はチャベス大統領のボンバルデ革命の一環で、ミッション・アルオルの森林計画という。このミッションでは5年間に4500万本の植林を行ったという。このうち共催団体が1000万本、政府の機関が3500万本という大規模な計画で、森の再生が目的だという。今回我々はそのミッションの参加するために来たことになっている。この計画の責任者、気候の専門家がこの場で紹介された。これ以外に公園の専門家とこの計画のスタッフが数人いた。またキューバ、ボリビア、ニカラグアなどカリブ諸地域同盟ALBAの高校生7名も参加していた。

この形の植林の会は日本の豊橋のどこかで見たものではないか。ちょうど1年前(2011年)、石巻山であったイベントだ。

宮脇昭先生を指導者に毎日新聞が主催し、ひな壇には地元の経済、政治関係者が並び、植林には市民が参加した。ただ、ベネズエラの方が国際的と言える。そのうちに環境副大臣という方も現われてあいさつされた。

現場まではさらに歩いて10分。ビニールのポットに入れた苗はすでに運ばれていた。根元は乾燥気味だ。高さ30cmほどで、一部に2mのものもあった。植える場所は整地され穴も掘られていたが、今日掘ったものではなさそうで乾燥していた。取り除いた土は固く大きな塊となっていた。係の人が、ビニールをとって穴に入れ、土をかぶせると説明する。我々は思い思いに穴を探し、言わされたとおりにしてゆく。ただ埋める土が硬く、なかなか細かくならない。他の人の作業を見ると土塊が大きく、根元に空間ができているものも多かった。これではダメだ、枯れるだけである。きめ細かさに欠けているようだが、参加者にもその問題点が分かっていないようだった。ただ雲が低くなり雨が降りそうだ、と思う間に風を伴った雨が降ってきた。植物にとっては恵みの雨だ。この3倍は降らなければならぬだろうが、30分ほどで上がってしまった。



▲コチコチの土に植林。すぐ後スコールが来た。

自然観察指導員講習会を経て、24名の方が協議会に入会されました！

平成27年8月29日（土）・30日（日）、犬山国際ユースホステルで開催された愛知県・日本自然保护協会主催の自然観察指導員講習会に51名の方が受講し、このうち24名の方が愛知県自然観察指導員連絡協議会の会員となりました。

新入会員の皆様から入会申込書にご記入いただいたメッセージを、今号のp.4に紹介していますので、是非ご覧くださいね。

新入会員の皆様には、これから自然観察会や各支部・協議会の行事、役員など、様々な場面でのご活躍を期待いたします！ よろしくお願ひいたします。

PICK UP!

自然観察指導員講習会の関連記事 → 今号のp.2, 3, 4

* * * * * 編集部から * * * * *

◆ 協議会ニュースのサイズ変更（B5→A4）について

お待たせいたしました。ついに今号から協議会ニュースがA4サイズになりました！ A4化に合わせ、文字のサイズやデザインも変更し、読みやすく、わかりやすい紙面作りを心がけましたが、いかがでしょうか。

協議会ニュースは記事だけなく紙面づくりも会員の皆様が主役です。より良い内容となりますよう、今後とも、皆様からのご意見やご提案をお待ちしております。

◆ 協議会ニュース150号企画について

平成28年3月発行予定の協議会ニュースが創刊から発行150回を迎えることを記念して、皆様から、協議会ニュースに関する思い出やコメントなどを募集します。お気軽に編集部までお知らせください。（メールアドレス：ni.saboten@gmail.com）

＜編集後記＞ 協議会ニュースが今号からA4サイズになりました。「149号から」というと少し中途半端ですが、今号は指導員講習会を経て入会された方々のもとに初めて届く号だと思うと、なかなか良いタイミングですね。また、この変更が、会員の皆様からのご意見で実現したのが一番うれしいことです。これからもよろしくお願ひいたします。（久米）

編集スタッフ	岡田雅子 久米未祐 馬場隆之 日浦誠章
「協議会ニュース」 編集部	久米未祐 TEL：090-3302-1621 E-mail：ni.saboten@gmail.com

愛知県自然観察指導員連絡協議会（あいち自然観察会）事務局 石原則義

〒464-0096 名古屋市千種区下方町7-3 TEL/FAX：052-711-3087

E-mail：noriyoshibob@yahoo.co.jp Web Page：<http://naichi.net>

郵便振替口座：00820-9-6546（名義：愛知県自然観察指導員連絡協議会）